

立江中学校の生い立ち

元 立江中学校 教頭 久保 學

昭和 22 年、私は富岡高等女学校から新製の立江中学校の教頭に懸から命じられました。

同時に、朝鮮高等女学校から平島青年学校を経て、懸から長尾照夫氏が新制立江中学校長を命じられました。

そこで、皆様方と初めてお会い出来た訳ですが、当時の「思い出の一こまひとこま」は懐かしさでいっぱいですが、それはまたの機会におゆずりして……今日は中学校設立当時の経緯などについて述べてみます。

その頃の一般の人々は、中学校の内容等については全然知りませんでした。せいぜい「高等小学校が中学校という名前に変わったのだろう」と思ったくらいでしょう。

しかし新制中学校の教員は「高等小学校の名前が変わったもの」ではなく、「新制中学校という全然別の新しい学校が誕生した」と思っていました。

私たち（長尾校長や私たち教員）は、その内容（学制改革の趣旨）を十分に知っていましたので、立江小学校の余っている校舎に新制中学校という名前をつけ、それを立江中学校として設立するなどという、安易な方法は一切受け付けませんでした。

そういった考えのもとで、長尾校長以下私たち教員は新しい土地を色々と探しましたところ、当時青年学校のあった『鍋寺』に、その土地を見つけたのです。

鍋寺は「第一」に立江・櫛淵の中間に当たり、また田野にも近い、「第二」に土地としては街の中央でなく、「第三」に気候が年間を通じて、立江で一番温暖で良好と考えられたからです。

“^{ほんてん}半天を ^{きら}嫌う^{てんき}天気や ^{ふゆ}冬ぬくし”

(注意：^{あわせ}裕をきらうの意)

立江に優れた土地がありました。それが鍋寺（なべでら）の土地でした。

今の立江保育園のある場所で、実際に冬でも“半天（勿論、裕の着物も）を必要としない、気候温暖な土地”なのです。

土地の選定に当たった長尾校長はじめ各先生方は、一致結束しこれで押し通しましたし、当時の立江町の矢野助役も、これに賛成し全面的に協力してくれました。

このような経緯で鍋寺の地で、新制立江中学校がスタートしたものの、終戦直後の実に厳しい時代のこととて、中学校の校舎さえまなぬ状況であり、生徒と先生方が毎日先頭に立って、一生懸命運動場の土地を埋め立て・土もりなど共に汗を流して頑張ったことは第 3 回卒業生の皆さん方の思い出に、鮮明に刻まれていることでしょう。

だから“立江中学校”が他町村に先立ち、第一番に立派にスタート出来たのです。

このようにして今の立江中学校は、昭和 22 年 4 月『鍋寺』の地に誕生したのです。

つたない文章ですが、失礼いたします。

※ 第 3 回卒業生の同窓会の折、久保先生が書かれた手記です。